

# vetOSCE実施要項案

9月19日2013年 全国協議会

9月21日2013年 教育改革会議

9月22日2013年 担当者会議

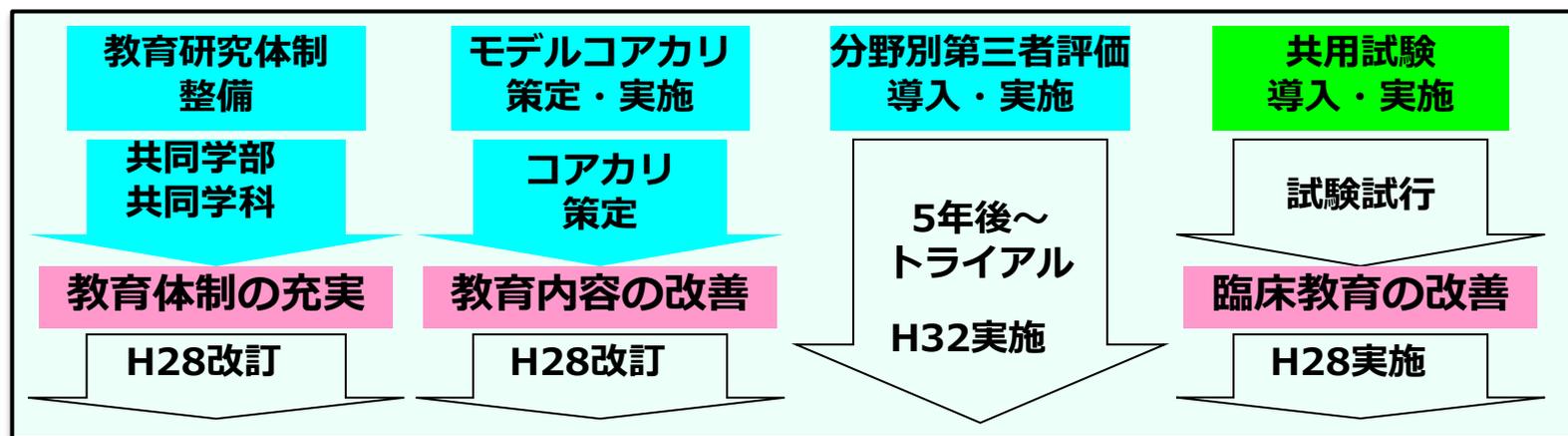
vetOSCE実施小委員会

# 共用試験

共用試験検討開始 2010年

文部科学省調査協力者会議答申 2012年

獣医学教育の改善・充実にに関する調査協力者会議 (H23.3)



全国協議会：参加・不参加を各大学に諮問 2012年9月

全大学が参加表明 2012年10月

# スケジュール案

平成25 年度

第1 回CBTトライアル(5 年生、日獣大、麻布大)

平成26 年度

第2 回CBTトライアル(5 年生、参加表明大学)

第1 回OSCEトライアル(数校・希望学生)

平成27 年度(本格実施と同じスケジュール)

第3 回CBTトライアル(5年生、参加表明大学)

第2回OSCEトライアル(参加表明大学)

平成28 年度(本格実施)

第1 回共用試験(CBT+OSCE、4 年生、参加表明大学)

# vetOSCE

目的:

1. 参加型臨床実習を行うための基本的な臨床能力を確認＝獣医師法17条の阻却要件
2. 基本的な事項＝面接と基本的手技 を問う

面接

身体検査1  
犬の身体検査  
保定・採血

身体検査2  
牛の身体検査

無菌操作・  
皮膚縫合  
ガウン・マスク  
手袋装着 または  
皮膚縫合・結紮

# II. vetOSCEの準備 1

## 1. 事前実習の整備(各大学で)

### 1) 医療面接

事前トレーニング = コミュニケーションスキル実習

以下のA. B.から選択

**A. DVD視聴による実習** (移行期の処置としたい)

模範的な学生による医療面接を記録したDVD視聴

**B. 模擬クライアントによる医療面接実習**

実習用シナリオ作成 例示: 日獣大 + シナリオ委員会

進行役(教員) = 基礎、応用、臨床を問わない

学生30名につき2-3名(徐々に増やす)

⇒ 評価者養成

模擬クライアント: 実習に参加していただくボランティア(各大学で準備)

標準クライアント: vetOSCE医療面接担当クライアント(実施機構から派遣)

## II. vetOSCEの準備 2

### 2) 実技試験

#### 事前トレーニング

OSCE実施内容に適合した実習  
シミュレーター or 生きた動物

OSCEの手順書を参考にした実習

a) 教員の指導による実習

b) 自習用スキルスラボ設置

➡ 各大学で準備



## II. vetOSCEの準備 3

コアカリキュラム準拠

「vetOSCE対応実習の手引き」作成・・・中

イヌ身体検査: 視診、触診、聴診、採血保定、  
採血(前肢) ⇒ 上地先生

子牛身体検査: 視診、触診、聴診、検温、聴診  
⇒ 大澤先生

無菌操作、皮膚縫合: 手袋、ガウン装着、  
縫合・結紮 ⇒ 藤井先生

## 2. vetOSCE 目的

診療の基本的事項を確認する

○インタビュー(医療面接)の基本

動物⇔飼い主⇔獣医師のコミュニケーション

態度・服装、あいさつ、自己紹介、導入質問、基本的事項(飼い主との会話)

身体検査の前まで⇒病気の診断(各論)を要求しない

○基本的診療技術

小動物(イヌ)、産業動物(ウシ)を対象

身体検査、保定・採血、無菌操作・縫合など

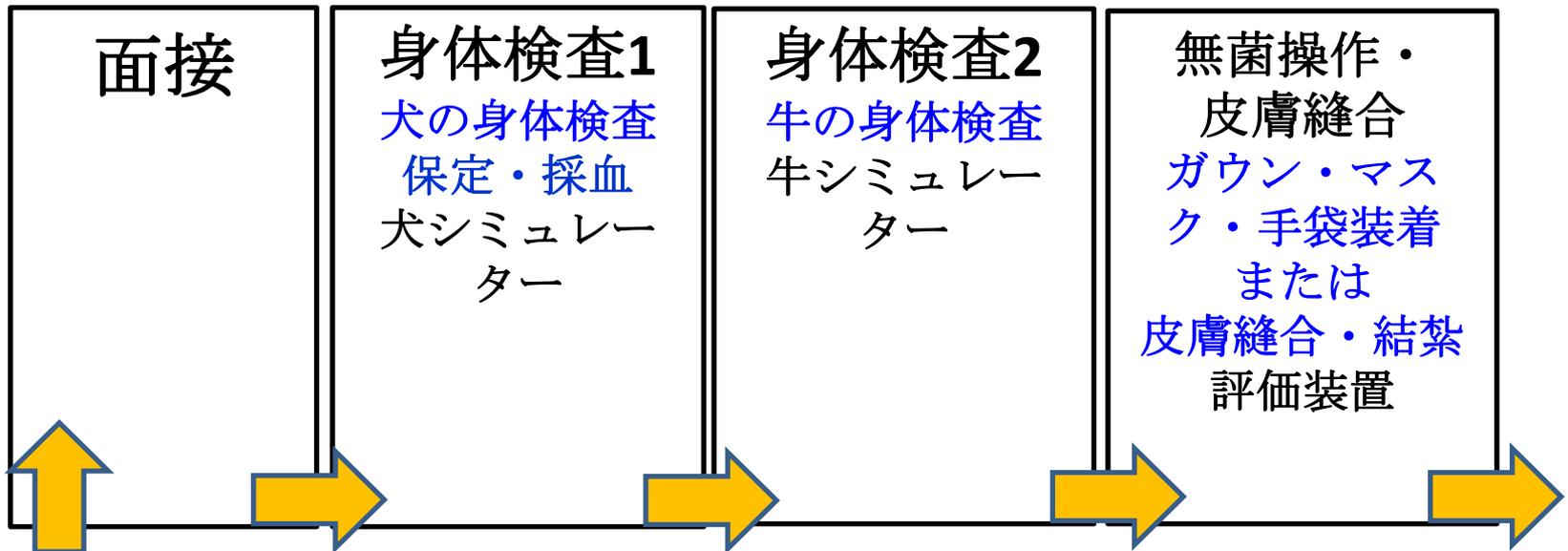
# vetOSCE 実施計画案

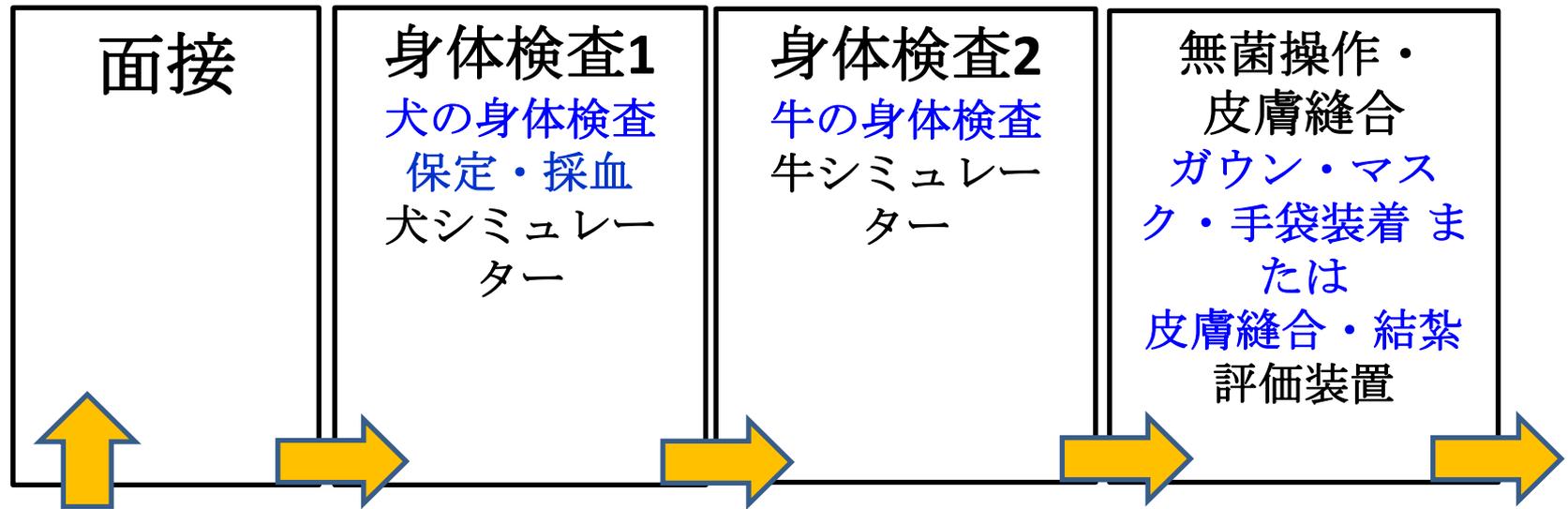
実施時期:

大学	本試験時期	
酪農 東京農工・岩手・岐阜・ 大阪府立・山口・鳥取・ 鹿児島・宮崎	春 (2-3月)	4年後期後
北海道・帯広	中間	5年前期前半後
東京・北里・日獣・ 麻布・日本	夏 (8-9月)	5年前期後

# 1) 全体計画

面接、犬身体検査、牛身体検査、  
無菌操作・皮膚縫合(選択)の4室  
4室を近接して設置 ……移動時間節約





レーン数、ステーションの組み方＝各大学の判断

OSCE小委員会試算：

所要時間： 1レーン10分

学生数 30名：330分（5時間半）、40名：430分（7時間10分）

必要レーン数： 30-35名＝1、40名＝2、90名＝3、150名＝4-5

国立（30-35名） $1 \times 10$ 校＝10、北大、府大（40名） $2 \times 2$ ＝4

日獣大（90名）3、他の私立大  $5 \times 4$ 校（140-150名）＝16 合計36レーン

# 必要な役割と人員 / 30名学生

- 全体の管理者 1名 (緑: 当該大学教員)
- 全体の外部評価者 1名 (茶: 実施機構派遣)
- 受付、受験生確認、試験進行説明と誘導 2名 (青: 事務職員でも可)
- 実技試験タイムキーパー 面接1名、他3ステーションで1名
- 実技試験ヘルパー(物品補充等) 各実技ステーション1名 計3名

面接	身体検査1 犬の身体検査	身体検査2 牛の身体検査	無菌操作・ 皮膚縫合
管理者(内部評価)1 外部評価者 1 補助者(兼タイム キーパー) 1 標準クライアント2-3 (交代) 計5名	管理者(内部評価)1 補助者(内部評価)1 計2名	管理者(内部評価)1 補助者(内部評価)1 計2名	管理者(内部評価)1 補助者(内部評価)1 計2名

集計: 実施機構派遣: 評価者2名、標準クライアント 2-3名 = 4-5名  
当該大学教員: 全体の管理者1名、管理(評価)者4名、補助者4名 = 9名  
当該大学事務職員: 6名(ヘルパー3名は学生アルバイト可)

# 評価基準

## A) vetOSCE評価

☆各評価項目の判定(4段階)

4. 優(獣医師と違いがないレベル)
3. 良(学生としては良くできるレベル)
2. 可(境界領域(合格))
1. 不合格

## B) 評価表作成 各ステーションごとに作成する

氏名、受験番号、評価項目、総合評価

A4サイズ 1葉 短時間で記入できるようにする

= 評価項目の厳選

ステーション	医療面接	評価者				1	2
受験番号	氏名				大学		
評価項目	評価				合計点		
1)身だしなみ	<input type="checkbox"/> 合格	<input type="checkbox"/> 不合格					
2)服装	<input type="checkbox"/> 合格	<input type="checkbox"/> 不合格					
3)オープニング	<input type="checkbox"/> 合格	<input type="checkbox"/> 不合格					
4)話を聴く(前半)	<input type="checkbox"/> 合格	<input type="checkbox"/> 不合格					
5)話を聴く(後半)	<input type="checkbox"/> 合格	<input type="checkbox"/> 不合格					
6)クロージング	<input type="checkbox"/> 合格	<input type="checkbox"/> 不合格					
総合評価	4	3	2	1			

### 3 評価項目 面接ステーション

評価基準 4. 優(獣医師と違いが無いレベル)、3. 良(学生としてはよくできるレベル)、2. 可(境界領域)、1. 不合格

#### 1)身だしなみ

- 髪の毛はお辞儀をした時に顔にかからないように髪留めで止める、または結ぶ
- 無精ひげ不可  華美な化粧はしない、香水はつけない
- 結婚指輪以外の指輪はつけない。イヤリングは耳たぶに密着するもの

#### 2)服装

- 清潔感のある白衣(×しわ、シミ、ほつれ、落書き)  ボタンはとめる。×短パン、ミニ・ロングスカート、ブルージーンズ
- 靴を履く(×サンダル、ハイヒール)  フルネームのネームカード

#### 3)オープニング

- 呼び入れ(診察室のドアを開け、クライアントおよび動物の名前を呼ぶ)  挨拶と自己紹介(フルネームで)
- 荷物を所定の場所に置くように指示する  クライアントおよび動物の名前、年齢、性別、不妊手術の有無の確認

#### 4)クライアントの話を聴く(前半)

- 「お話を伺いますね」ということをまず伝える
- 「今日はどうされましたか？」などのOpen-ended questionで始める(途中で話を遮らない)
- クライアントの訴えに対して、「そのことについてもう少し詳しくお話下さい」等
- クライアントとのアイコンタクト、適切なタイミングで、うなずき、相槌などができる
- 共感的な対応ができる  適切な声の大きさ、スピード、調子で話す
- 十分に話を聴いてから、平易な言葉で適切な要約を挟む

#### 5)クライアントの話を聴く(後半)

- 前半でクライアントが話さなかったことについて必要な情報を得る
- Focused question 要領良く情報収集(食欲、飲水量、体重の変化、生活環境/同居動物、既往歴・他院での検査や治療)
- 解釈モデル(症状についてクライアントがどのように考えているか)を理解

#### 6)クロージング

- クライアントの話を要約  聞き洩らしや質問がないか確認
- これから身体検査を行うこと、待つ場所等をクライアントに伝える  挨拶

ステーション	縫合法		評価者	1	2
受験番号		氏名			
評価項目		評価	合計点		
1) 器械の選択		<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格			
2) 針の装着		<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格			
3) 運針		<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格			
4) 結紮		<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格			
5) 時間配分および最終確認		<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格			
6) 縫合シミュレーターの点数					点数書き込み
総合評価		4 3 2 1			

評価基準 4: 優(獣医師と違いが無いレベル)、3: 良(学生としてはよくできるレベル)、2: 可(境界領域)、1: 不合格

評価項目

- 持針器を確実に選択する
- 針の把持部位は先端から3/4程度の部分、針先が向かって左に位置する
- バネ針の場合は、糸を折り返し適切な長さで装着する
- 鑷子(ピンセット)を選択する。持ち方は、鉛筆を持つように左手の母子と示指、中指でその基軸を手背に向かわせるように把持する。鑷子を握るような持ち方は、術者の操作性を制限するため不適切とする
- 持針器を適切に把持する
- 針の刺入部位は創縁から針の半径よりやや短い距離、挿入は皮膚および創縁に対して直角であること、ためらい針を避ける
- 運針は針の湾曲に沿って、手首の回転を利用しているか
- 創縁を軽く持ち上げるなど、鑷子を補助的に使用しているか
- 反対側に出た針を、針先を損傷しないように把持器で把持でき、針の湾曲に沿って針を皮膚から抜けるか
- 機械結びは適切か
- 創面合わせは創面が内反したり創面が重なったりしない
- 結紮は3回。滑り結びは不可
- 切った糸の長さは結び目から5mm~1cm程度か
- 縫合時間は、1糸1分以内程度で、上限3分以内に縫い終わることを確認し、糸のたるみが適切か、結びがほどけないかチェックする。

# 評価者認定

## システム構築

当面: vetOSCE小委員会⇒vetCAT幹事会⇒全国協議会

将来: vetCAT機構にvetOSCE評価者認定委員会

評価者資格認定基準(できるだけ多くの教員に)

面接: 助教(テニュアトラック)以上の全教員

獣医師資格にこだわらない

獣医療面接実習経験者

実技: 臨床系教員が好ましいがこだわらない

研修システム: マニュアル作成

1) 講習会参加、2) 実習実施経験

## 2) 医療面接ステーション

### ○面接試験室の設定

必要人員 管理者(内部評価者)1名、外部評価者1名、  
補助者1名、標準クライアント1名(交代)、タイムキーパー1名  
必要品:イヌまたはネコのぬいぐるみ、筆記用具、椅子など  
複数レーン設置・・となりの音が聞こえない静かな部屋

### ○面接シナリオ作成(シナリオ作成委員会)

# 標準クライアント派遣システム

アニコムと協議(契約は共用試験実施評価機構)

必要人員、必要経費の試算

全国で36レーン、各レーン2名とすると、延72名／年  
ビジネスとして依頼⇒

仮定

1名／1レーン／1日 1万円      +旅費+宿泊  
東京⇔各大学

全国で36レーン必要:

1万円 × 2名 × 36レーン = 720千円

+旅費+宿泊

 各大学負担

# 面接評価者養成1

○評価基準とチェックリスト:

基本的項目⇒シナリオ委員会

○面接試験評価者(試験の進行係を兼ねる)養成・認定システム⇒これから詰める。

評価委員養成・認定委員会

受講資格:

助教以上の常勤(テニュアトラック)教員

獣医師資格は不要

講習会参加者

獣医療面接実習経験者←必須としたい

# 面接評価者養成 2

○評価者講習会：

年1回、獣医学会時 各大学で？

研修内容 講義(DVD?)：vetOSCEの目的・意義

医療面接とコミュニケーションスキルの基本

医療面接の審査方法(DVD)

実習？(可能であれば各大学で)：vetOSCEの実際

評価者認定用標準クライアント、標準学生の準備

研修場所：コミュニケーション実習先行実施大学

⇒各大学に広げる

# 面接評価者養成 3

## ○ コミュニケーションスキル実習見学会

- ・ 2013年夏休み 模擬クライアント研修を日獣大・岐阜大で実施
- ・ 日獣大のコミュニケーションスキル実習(OSCE仕様)見学  
2013年後学期実習の見学(全国の大学受入)

## ○ 認定システム

実習時の評価

認定者による評価

講義内容に関する簡単な試験＝問題作成??

# 3) 実技ステーション

## ○シミュレーター開発

- 1) 犬身体検査シミュレーター・・・開発中
- 2) 子牛シミュレーター・・・開発中
- 3) 皮膚縫合評価装置・・・既存

○消耗品・・・各大学で準備＝予算獲得  
採血用品、頭絡、体温計、ガウン、  
グローブ、キャップ、把針器、針、糸  
・・・等



# イヌシミュレーターに必要な機能(日獣大 堀達也)

## 触診

頭部:鼻、目、歯周・口腔粘膜、耳、被毛

可視粘膜 眼瞼、眼球、角膜・・・を備える

頸部:触診、被毛、頸静脈=触感のみ

胸部:背側、心拍動の確認、打診=形だけ

腹部:背側、上腹部、中腹部、下腹部、陰部、肛門、尾

前肢および後肢:爪、パッド、伸展、屈曲 関節をつける

頭部、体幹、四肢、尾、陰門、肛門、耳、耳孔=形だけ



## 聴診

胸部:両側心尖部、両側心基底部および両側前胸部の聴診。インチング 心音音源

腹部:胃腸音の聴診。インチング 動作のみを評価、消化器音・・・音源不要

## 保体

採血および処置等に必要な立位および側臥位の保体

頸静脈採血および頭頸部検査

前肢からの採血及び検査(保定、圧迫、とう側皮静脈怒張)

前肢+とう側皮静脈採血シミュレーター

後肢の保定(検査) 後肢から採血しない

# 子牛シミュレーター

(必須課題)

課題1: ハンドリング: 近づき方, 保定(頭絡の装着, 柱への係留)

課題2. 可視粘膜の検査・・・実施するが診断をしない

課題3. 指示する牛の体の部位の説明 3か所を触れて示す

・部位の例: 鼻鏡、頸溝、胸垂、き甲、前膝、前肢球節、後肢球節、第13肋骨、十字部、臀部、腰角

(選択課題)

課題4: 体温の測定

課題5. 心臓の聴診, 心拍数(実際に測定)

課題6. 肺野の聴診

課題7. 第一胃運動の聴診

## 開発中

# 皮膚縫合シミュレーター

- 開発済（ヒト用） 22万円  
判定用ソフトウェア付  
コンピューターなし
- 模擬皮膚が少し硬い
- 自動評価 画像、張力等から点数化
- 準備（持針器・針の選択）、  
操作の流れ、手つき等を**総合評価**



# 経費試算1

・・各大学  
・・機構

- 事前実習経費
- ステーション設置(仕切り等)
- シミュレーター

開発経費: 文部科学省に申請(来年度概算要求)

購入経費: 各大学で購入(国の補助の可能性)

- 外部評価者: 日当、派遣旅費
- 標準クライアント: 日当、旅費
- アルバイト(使用する場合)
- 教職員の日当
- 消耗品
- 集計・報告

# 経費試算2 岐阜大学(30名)の事例

- 事前実習経費 予算 24年度 50万円 25年度 70万円  
消耗品購入、模擬クライアント研修、  
縫合シミュレーター購入(22万円)
- ステーション設置(仕切り等) 既存施設(動物病院)使用 0円
- シミュレーター

開発:経費を文部科学省に申請(来年度概算要求)

購入:各大学で購入(国の補助の可能性)

犬シミュレーター 40-70万円 未定

牛シミュレーター 120-170万円 未定

縫合シミュレーター 22万円・購入済

- 標準クライアント:日当2名:2万円、旅費:東京⇔岐阜=7万3千円
- アルバイト(使用する場合)3,000円×3名=9,000円 +2万円
- 教職員の日当 0
- 消耗品(縫合糸、針、模擬皮膚、ガウン、手袋・・・) 30万円弱

合計: シミュレーター購入費+422,000円

# 追・再試験

- 本試験のおよそ1か月後
- 1名でも受験者がいたら実施
- 準備（標準クライアント、外部評価者の確保）  
ステーション設置等が必要⇒経費派生  
＝受験生がいなくても経費が必要

# 追・再試験

**A案(地域開催案)**: 実施時期と実施場所: 経費を考慮して、最も少なくなる大学を選ぶ(・・これから相談)

- 受験者数: 各大学1-2名、私立大学はもう少し多い可能性あり。  
各地1レーン(30名)でOK。受験生がなくても実施大学では1レーンを準備。
- 全国4か所くらい
- 移動経費: 基本的に学生負担。自大学で単独で開催するよりも経費は少ない。
- 実施大学人件費: 管理(評価)者、受付・・等の負担をどのように考えるか。

## B案(各大学開催案)

- 各大学が1レーン準備
- 標準クライアント派遣費用: 本試験36レーンに16レーン追加される可能性  
受験者が無い場合にキャンセル可能?・・派遣会社と年間契約(追・再試を含めて契約)
- 外部評価者派遣費用 受験者が無ければキャンセル・・派遣旅費は機構負担
- ステーション設置費用、人件費・・各大学負担

オスキー委員会: 各大学開催案をとりたい

# 追試験必要経費

## 1レーン

1. ステーション設置経費 各大学の事情
2. 外部評価者派遣旅費 評価者2名←機構負担
3. 標準クライアント 1名 1万円＋旅費＋宿泊
4. 当該大学教員: 全体管理者1名、管理(評価)者4名、補助者4名＝9名
5. 当該大学事務職員: 6名(ヘルパー3名は学生アルバイト可)
6. 消耗品 5-10万円

# 身体障害者への対応

対応する

事前に実施機構(委員会)に相談

事情に応じた対応をする

# トライアル、本試験実施に向けて

- 面接実習の実施 **いきなり本番は無理**
- 実技実習)の実施(身体検査、採血、ガウンテクニック、皮膚縫合等
- 各大学におけるOSCE実施計画案策定  
= 実施体制構築: **まとめ役、面接担当、犬身体検査担当、牛身体検査担当、ガウンテクニック・皮膚縫合担当**
- 学部・大学の支援 事務職員の協力
- 予算獲得 臨床実習用 & OSCE用